社会福祉法人ゆたか福祉会広報

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

2023
No.481

障害者のゆたかな未来をめざして

2

「理科室のいろいろ」　ゆたか生活支援事業所みどり　森井 照子さん　※紹介が13ページにあります。

CONTENTS

▶ 鈴木峯保さんを偲ぶ会 …… P2～11
▶ わたしたち成人式を迎えました …… P14～16

2023年2月10日　毎月1回10日発行　一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会　〒457-0852　名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356　FAX 052-698-7358　http://www.yutakahonbu.com/

愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会　検索

んを偲ぶ会

～通夜・告別式 お礼の言葉～

「この先も父が描いた未来を目指してまいります」

ハンディキャップを持つ方々への偏見が当たり前のようにあった時代、父は仲間とともに立ち上がりました。彼らが生きていけるように、仕事をしても不当な扱いを受けぬように…その道のりは険しかったでしょう。それでも信念を持って一歩ずつ歩みを進めてまいりました。父の熱意に共感して力を貸して下さった方々はもちろん、ハンディキャップを抱えた方のことも“仲間”と呼び、一丸となって頑張ってきた先にあったのは沢山の笑顔です。どんなに高い壁も皆で乗り越え、その手で数えきれないほどの幸せを掴み取ってきた父を誇りに思います。私が教師になり、妹達は父と同じ福祉の道を歩んでいるのも、偉大な背中を見て育ってきたからです。受け継いだ志を次の世代へ繋いでいくことこそ一番の親孝行になると信じて、この先も前を向いて進んでゆくと誓います。

父 鈴木峯保は、令和四年九月十一日、享年八十歳にて真っ直ぐに駆け抜けた生涯に幕を下ろしました。

突然の別れは残念でなりませんが、最後の最後まで誰の手も借りずに瞼をとじたことにきっと本人も満足していると思います。父が愛したお仲間の皆様におかれましても、時折ともに紡いだ日々に思いを馳せ空を見上げていただければ嬉しいかぎりです。素晴らしいご縁を結び、お力添え下さいました皆様へ、深く感謝を申し上げます。

～峯保さんのご家族から～

「私の道標」　長女　大嶋 晶子

私は、兄弟の中で一番甘えるのが苦手で、自分のやりたいことを自由にやってきました。そんな私に「自分のやりたいことは自信をもってやればいい。うまくいかなければ相談すればいい」「大丈夫！何とかなる」と言って支えてくれた父です。私は、そんなちょっと楽観的な父が大好きでした。そして、お酒が大好きで、酔っぱらって陽気になると決まって見せる『くねくね踊り』や『腹踊り』も今でも真似できます！

お茶目な一面もあり、人を和ませる力を持った父の存在は、私にとっては自分の生き方の道しるべでもあります。父から学んだ「人のためにできることをする」姿勢をこれからも受け継いでいきます。「お父さん、ありがとう！」

また、そんな父を支えてくださった方々、関わってくださった方々にも感謝しかありません。本当にありがとうございました。

「父とともに」　次女　大場 陽子

子どもの頃は休みになるといつも仲間と一緒に作業をしたり、散歩をしたり、法人本部で過ごしていました。旅行等のイベントも仲間と一緒でした。不登校時は全国の会議や講演について回りました。常にゆたかの仕事と仲間と一緒でした。子どもの頃は「なぜだろう」と思いましたが、今はわかります。「仲間や障がい者のためにより良い社会を作りたい」。それでも私と一緒にいる時間を作ろうとしてくれていたことを。

この 15 年間は一緒に高齢者介護事業を行ってきました。多くのことを教えてもらいました。まだまだ教えてもらいたかったことはたくさんあります。今でも、亡くなった実感はありません。昔のように全国に会議や講演に行っていて、その内にひょっこりと帰ってくるのではないかと。

それでも前に進まなければなりません。父から学んできた「利用者にとって、より最善を」「できる、できないではなく、どうしたら少しでもできるようになるのか」を考え、実践し続けていきます。

鈴木峯保さ

「仲間たち」と ともに歩んだ　みねやすさんの おもいを繋ぐ

ゆたか福祉会では12月18日、昨年9月11日にご逝去された「鈴木峯保さんを偲ぶ会」を名古屋国際会議場にて開催しました。

当日は峯保さんのご家族をはじめ、名古屋グッドウィル工場時代の仲間、峯保さんと出会い、共にそれぞれの時代を過ごした皆さんや内部関係者約120名と、オンラインも含めて140名近い方々のご参加がありました。

スピーチでは「その人ぞ知る」数々のエピソードが紹介され、改めて峯保さんのお人柄や障害のある仲間とともに歩んできた人生を感じる会となりました。

「偲ぶ会」の開催にあたって　～この温かさはどこから～

「どんな会にしようか」と考えた時、頭に浮かんだのは9月14日、15日に家族葬で行われた通夜と告別式の情景でした。会場に入り、まず目に飛び込んできたのは酔っぱらってお腹を出しソファで眠る峯保さんの“雄姿”のお写真。お腹には何かが描いてあるような…。50名程の皆さんが参列され、終始穏やかで温かな雰囲気に包まれた送葬の儀は「こんなふうにお別れがしたい」と思ったほどでした。

ゆたか福祉会でも参列したのは、本部役員をはじめ限られた人数でしたが、法人内外を問わず峯保さんと最期のお別れをしたかった方はたくさんいらっしゃったと思います。「心温まる雰囲気を偲ぶ会にもつなげていきたい」と思い、「どこから生まれた温かさなのか」と考え、それはひとえに仕事と家族を愛し続けた峯保さんの人生そのものだったからだと気づきました。

夫、父を語る

「仲間と共に」　妻　鈴木 保江

私は開所間もない名古屋グッドウィル工場で初めてフミエさんに出会い、その一ヶ月後に再び会った。フミエさんは「本当に働けるのだろうか」という私の不安をみごとに吹っ飛ばし、素敵な笑顔で生き生きと働いていた。その姿に感動すると共にふつふつと沸きあがってきた喜びに私は包まれた。

このようなゆたかの実践を心に留めつつ、私は教員生活の大半を障がいをもつ子らと過ごしてきた。また、地元では夫や関係者の方と知立日曜学校（けやき作業所）を立ち上げ、そして夫が理事長をしていたNPO法人和では、10年余、介護職員をしてきた。

私は福祉を学びたいという思いで日本福祉大学Ⅱ部に入学し、そこで夫の峯保に出会った。常に障がいをもつ仲間に教えられ、励まされ支えられて夫と共に福祉の道を歩み続けてこられたという幸せを今、しみじみと感じている。

ゆたか福祉会の皆様に深く感謝するとともに今後の発展を心より強く願っている。

「最高の思い出」　長男　鈴木 健士

60歳手前の頃、父が精神的に苦しむ鬱の時期がありました。それまでの人生が何の意味もなかったかのように思えてしまったそうです。そんな父に、私は依頼しました。「一緒に授業をやってくれないか」と。

私はその当時、教師として中学3年生の担任をしていました。「生き方を学ぶ会」と題して、父をゲストティーチャーとして招いたのです。授業を作るにあたって、父と私はたくさんの時間を打ち合わせに費やしました。長崎で生まれ、中学を卒業してすぐに愛知に来て、福祉の道一筋、世の中の先頭に立って突き進んできた父。その偉大な生き様を2人でじっくりと確かめ合いました。

授業当日、父は私と共に教壇に立ち、意気揚々と自らの生き様を、私の教え子たちに語ってくれました。そのときの潑剌とした父の表情と、授業の最後に言った「最高に幸せな時間でした」という父の言葉が、今でも忘れられません。

寄せられたメッセージ

（掲載は順不同です）

急なご逝去、おどろいています。心よりお悔やみ申し上げます。所用の為出席できません。あの人なつっこい峯保さんの笑顔が忘れられません。長年の福祉でのご労苦に対し、感謝で一杯です。私（80才）より、早く旅立たれるなんて人生の無常を感じます。どうか安らかにお休みください。ありがとうございました。

社会福祉法人名古屋ライトハウス　近藤 正臣

40数年に渡り、折に触れご指導を頂き、感謝に堪えません。ありがとうございました。

社会福祉法人すずかけ福祉会
理事長　河内 士郎

峯保さんが同志と始められたゆたか福祉会、同じ南区の地域で障害者福祉をリード、又、運動的視点をもって事業展開されていく姿勢に大いに学ばされました。又、我が法人が苦境にたたされた時、支えてくださった事も忘れられません。娘さんが当法人にて働いて下さった事もうれしい事でした。

社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
常務理事　谷川 修

ゆたか福祉会の礎を築き、きょうされん愛知支部をはじめ愛知の障害者運動、そして全国の障害者運動、きょうされんの運動を長年に渡り牽引してこられた鈴木峯保さんの功績に心から感謝し、お悔やみ申し上げます。

鈴木峯保さんの温かいお人柄に触れ、共にきょうされんの運動にかかわれた事を懐かしく思い出されます。これからも鈴木峯保さんの遺志を引き継ぎ、共にがんばっていく所存です。ありがとうございました。

社会福祉法人みなと福祉会
磯崎 明美・森脇 拓恵

峯さんの訃報に接し、心より哀悼の誠を捧げます。障害をもった人たちやご家族の皆さんが、厳しい差別と無権利な状態におかれていた時代に「どんなに重い障害をもっていても一人の人間として人間らしく尊厳をもって生きていくことができる社会を求めて、全国に先駆けて苦難に立ち向かったその姿に共感し、短い間でしたが共に歩むことができたことに、心から感謝申し上げます。仲間のことを第一に、きめ細やかな心配り、優しさがあったからこそ、ゆたかは発展できたのだと思います。生涯忘れることはありません。本当にありがとうございました。

山﨑 恭裕

「峯さん」「峯さん」と仲間たちからも慕われ、常に「現場」によりそわれたその姿に職員として一時期をともにした者として尊敬いたしておりました。本当にありがとうございました。

末田 喜一

生涯現役で貫かれたお姿に学ばせていただきました。ありがとうございました。

ゆたか福祉会　監事　木戸 利秋

たいへんお世話になりありがとうございました。せめて、あと一度お目にかかりたいと思っていました。本当に残念です。今となっては、天上から見守っていただけたら…と思っています。安らかにお休みください。

戸谷 洋子

謹んで鈴木峯保様のご冥福をお祈り申し上げます。やむを得ない事情により「偲ぶ会」に出席することができず、申し訳ございません。離れた所からではありますが、鈴木様のご偉業に思いを致し、大学教員として社会福祉に取り組む若者を育てていきたいと思います。

浅原 千里

グッドウィル工場を作り、障害者の働く場、そしてゆたか希望の家を作り、障害者の生活の場を作った鈴木峯保さん、本当にありがとうございました。私たちは、峯保さんの遺志を受け継ぎ、頑張っていきます。

堀田 八千代

旅立ちが早すぎる。峯保さんの声や笑顔を思い出すと、この思いが強くなります。福祉の前進のために一生を捧げた実践家の生涯でした。心からご冥福をお祈りいたします。

愛障協顧問　野原 信一

鈴木峯保さんが踏み出された一歩は、大変大きな一歩でした。

峯保さんはやさしさと真面目さで、仲間、家族、地域と信頼を築き、障がい者が社会へ出ることがあたりまえの時代をつくる礎となってこられたと思います。

青年時代から、生涯を通して献身されたことを深く尊敬し、ご冥福をお祈りします。

中村 美代子

鈴木峯保さんには大変お世話になりました。ゆたか福祉会に入職した私に、希望の家の所長として、様々な事を教えて頂きました。峯保さんは常に、仲間、職員、家族の皆さまに温かい気持ちで接し、誰にでも平等に公平に接して下さいました。

数えきれないほどの愛情と熱意を持って、多くの人の心を支えてくださった事を、今でも思い出します。「峯さん」と皆から呼ばれ、笑顔で仲間たちの真ん中にいる「峯さん」の姿を忘れる事はありません。平和が大好きで、人が大好きで、お酒が大好きで…本当にありがとうございました。長い間お疲れさまでした。

名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会
会長 北村 榮章

峯保さんは1979年4月、私が入職（なるみ作業所）した時の所長でした。公私含めてお世話になりました。「仲間が主人公」のゆたか福祉会をその生き様で教えていただきました。ありがとうございました。

伊藤 浩

峯保さんとの出会いは、私が20歳代で、大阪から自分の故郷の愛知に戻り、ゆたか希望の家に就職した時です。自分の若気の至りの言動と共に、信念を貫こうとする自分の反骨精神に対して正面から対応していただけた、自分にとって、かけがえのない2年間でした。

その後、私は、無認可の「きそがわ共同作業所」に移り、長い期間、年賀状でのやりとりでしたが、私の現在にいたる諸活動について、毎年、温かく見守っていただける大変心強いコメントを記していただき、かけがえのない数十年間でした。

その後、きょうされん愛知支部の支部長を、峯保さんがひきうけていただく事になってからは、きょうされん活動を通しての諸交流が出来ました。「支部長像」の一つのモデル的存在としての峯保さんに接し、人生の未来像のモデルの一人として、自分の中に、「鈴木峯保」さんは深く宿りました。

峯保さん、ありがとうございます。

社会福祉法人きそがわ福祉会
常務理事 大池 周広

無認可作業所からゆたか福祉会に入り、親・職員・関係者で石元町、今の作業所を中古で購入。その建物の屋上には以前の社名の大きな看板がたっていました。峯保さんはその看板を「僕が書き直してあげるからね」と私の顔を見るたびにおっしゃって下さっていました。やさしい言葉をかけて下さった峯保さんにはとても感謝をしております。

境田 るり子

このたび、峯保さんの訃報にふれ、謹んでお悔やみ申し上げます。

南区鳴尾の地にゆたか作業所ができて以来ほんとうに長いお付き合いをさせていただきました。いつもやさしい峯保さんのまなざしに、人生の先輩としての愛情を感じ励まされてきました。ここに感謝の気持ちと心よりご冥福をお祈りいたします。

評議員 松宮 行宏

峯さんありがとうございます。

私の人生を幸せに過ごさせて下さった恩人です。日福大の社学連の活動でお世話になり、卒業後他県で働いて愛知に戻った時、峯さんのお世話でゆたか福祉会で働かせていただきました。その後退職後も「和」さんの会員にもさせていただき「老後の安心」ももたせていただきました。思いだすと、ただただ涙が頬を伝ってきます。

ケイ子さん共々感謝！感謝！の思いでいっぱいです。心からお礼を申しあげます。

山田 国明・山田 ケイ子

峯保さんに初めてお会いしたのは１９７９年の夏、私はまだ学生で、なるみ作業所の実習の時でした。その後、愛知県知的障害者福祉協会副会長になられた時、15年ほど前、峯保さんが私の故郷新城に来られて元家族会会長の藤田さん宅で懇談した時、節目節目でお会いさせて頂きました。

そして昨年12月、評議員会でお会いしたのが最後となりました。本当にお疲れ様でした。どうぞ、安らかにお眠りください。

社会福祉法人 新城福祉会
業務執行理事　長坂 宏

峯保さんの穏やかな姿が思い浮かばれます。ゆたか福祉会の礎を築いてこられた功績に敬意を表します。いつまでも仲間の姿をこれからも見守ってください。合掌

水野 三正

私がみのり共同作業所に入職した当時（１９４８年）頃、峯さんから「近藤さん、ゆたかに骨うずめる覚悟あるか」と言われ、はいと返事をしたことをきのうのようにおぼえています。その後、ゆたかひとすじ35年間働き、退職しました。峯さんありがとう。ゆっくり休んで下さい。

近藤 左千夫

障害者の社会参加をめざして極めて困難な中、着実にその成果をあげ、生涯を尽くされました。心より敬意を表します。
本当にごくろう様でした。

株式会社ユニオンサービス　相談役　毛利 登

鈴木峯保さん、本当に長い間日本の社会福祉の前進に貢献してこられました。お疲れさまでした。まだやり残したこともあったかもしれません。あとに続く方たちの奮闘が期待されますね。ご冥福をお祈りいたします。

南医療生活協同組合　事業所部長　首藤 秀一

いつも穏やかな表情で接して頂いた峯保さん。私と〝ゆたか〟との出会いは、私自身の人格形成に大きな影響を与えたと思っています。
障害者と家族のゆたかな生活に向けて、長い間ご活躍されたことに深く敬意を表します。

特定非営利活動法人　成年後見もやい
理事　塚本 道夫

ご苦労様です。峯さんの件びっくりしました。本当にお世話になり本当によく飲んだから…というのが第一の印象です。峯さんお疲れさまでした!!また飲みましょう!!

小酒 康一郎

峯さんの仕事は自分のためでなく傍楽でした。そのために環境整備、飲ミュニケーションなど大切にしました。人間が大好きな峯さん、ありがとう。

石元 憲明

突然の急逝された報にびっくり致しました。鈴木先生には長い間娘がお世話になり、本当にありがとうございました。

細川 志喜子

逝きし人は　みなうつくしく　語られり
過ぎし日々の　思いはつきず
遠き山村より　合掌

篠塚 加代子

あなたが創った「ゆたか福祉会」は、益々発展し日本の代表的社会福祉法人となりました。
本当にありがとうございました。残された課題を仲間と共に護り育てます。
安らかにおねむり下さい。

富田 偉津男

峯保さんおつかれ様でした。後は私にまかせて天国でゆっくりとお休み下さい。

トライズ（回収）　早川

長年、障がい者福祉にご尽力頂き、ありがとうございました。ご冥福をお祈りします。

浅野 美子

峯保さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。

三谷 紀子・(弟)三谷 一好

ながいあいだおつかれさまでした。「なかまがしゅじんこう」をこれからもずっとまもっていきます。

自治会連合会　会長　石橋 満久

峯保さん、淋しいです。私共親子が「ゆたか福祉会」に迎えてもらってより39年が過ぎます。娘が20才、私が40才でした。

立場はちがえど、私達は同級です。80才ちょっと前、気付けば79才になってしまいましたね。福祉の0の時代より心身共にご尽力下さり、本当に有難く感謝に堪えません。御苦労様でした。決して忘れません。もう少し頑張って行きますので、待っていて下さい。

保護者連合会　会長　藤田 順子

障害者福祉分野実践のパイオニアでした。あれこれの「姿」が目に浮かんできます。

伊藤 端彦

アルバイトのときを入れると44年間ゆたか福祉会の職員としてお世話になりました。

福祉について門外漢の自分にとって、峯保さんは灯台のような存在でした。「こんなとき峯さんならどうしただろう」と悩んだ時はいつも思いうかべていました。

長い間、本当にお疲れ様でした。

古川 守夫

ご逝去の報に接し、心から哀悼の意を捧げます。幼少期お正月のご挨拶が、私の最初の記憶でしょうか。ご自宅でお酒も入り、賑やかで優しいお人柄の印象でした。小児癌・起業含め、私の人生の色々をご心配頂いた事を、これまでもこれからも忘れる事はありません。

峯保さん達が形創ってこられた「共同」「仲間」という精神を大切にして、私の事業や人生を全うしていきます。ありがとうございました。

向 宇希

鈴木峯保さんのあゆみ

1943年6月11日 ―― ９人兄弟の８番目として長崎県平戸に誕生

1958年3月 ―― 中学卒業後、集団就職第１号として来名。お米屋さんに就職

1958年4月 ―― 愛知県立瑞陵高校(夜間部)に入学

1962年4月 ―― 高校卒業後、日本福祉大学２部(夜間)に入学

1966年3月 ―― 大学卒業。教師資格取得の為授業聴講。教員免許取得

1967年1月17日 ―― 結婚

1968年3月 ―― 名古屋グッドウイル工場設立。職員第１号として就職

1969年2月1日 ―― 親会社が倒産。作業所設立運動に立ち上がる

1969年3月16日 ―― 無認可「ゆたか共同作業所」設立

1972年2月1日 ―― 「ゆたか作業所」法人認可。社会福祉法人ゆたか福祉会設立 ゆたか作業所所長・ゆたか福祉会理事

1976年12月1日 ―― 「なるみ作業所」開設。設立を準備し所長に就任

1977年8月6日 ―― 「共作連」結成に参加

1984年2月28日 ―― ゆたか福祉会法人事務局長

1985年3月15日 ―― ゆたか福祉会法人専務理事

1997年3月28日 ―― ゆたか福祉会法人副理事長

1985～1993年 ―― あいち愛護協会(現知的障害者福祉協会)副会長

1993～1998年 ―― 同 会長

1990年代後半 ―― 労使紛争をはじめとした混乱期に遭遇

2004年1月15日 ―― ゆたか福祉会理事退任・参事

2006年12月10日 ―― ゆたか福祉会退職

2013年3月11日 ―― ゆたか福祉会顧問

2018年～2020年3月 ― きょうされん愛知支部支部長

2019年10月25～26日 ― きょうされん第42回全国大会副実行委員長

峯保さんが貫いた信念や志を引き継いで

～仲間に学び、仲間を信じた足跡を力に～

「偲ぶ会」当日、会場には次々と皆さんが来場されました。峯保さんと出会い、その人生を共に歩んだ方々が「こんなにもたくさん集まっていただいた」ことに胸が熱くなる思いがしました。会場正面には、峯保さんがお好きだった花アガパンサスをイメージした青系の祭壇が設置され、また会場の一角には懐かしいお写真や本などを紹介するコーナーが設けられました。

「会」は黙祷を挟んでの理事長挨拶と献花。献花の際には峯保さんのお好きだった「瀬戸の花嫁」「若者たち」「北国の春」などの曲がBGMで流れ、この歌とともに峯保さんを偲んだ方もいらっしゃったことと思います。その後、「ゆたかと共に～鈴木峯保さんの足跡を振り返る～」と題した12分程の映像を上映。長崎県平戸でお生まれになった子ども時代や、高度経済成長期「金の卵」として名古屋に集団就職され新聞で紹介された記事、ガラス窓に張り付いた日本福祉大学のチラシを見ての大学進学、そして結婚。ゆたかとの出会いは50周年DVDから抜粋した映像で紹介されました。

参加された皆さんのスピーチを紹介します。

愛知県知的障害者福祉協会　川崎 純夫会長

峯保先生は福祉協会で会長や部会長、副会長を長年お務めいただきました。愛知県は全国で一番加入数が多い県ですが、これもひとえに先人の方々のご努力の賜物だと思っております。

先生の印象は誰にでも本当に優しく、丁寧に説得力のあるお話をされるということです。今、障害者施設はお金の話ばかりしているようなところがあります。峯保先生は、障害のある方も安心して地域の中で生活できることを切に願われていると思います。これからは少しでもお応えできるような仕事をやっていきたいと思っています。

きょうされん顧問　立岡 晄さん

峯さんに会いに来ました。峯さんとの最初の思い出は、日本福祉大学夜間部3回生の時の作業所訪問。ドキドキしながらプレハブ作業所の玄関を開けると、中から磯部くんが「お兄ちゃん、よういらしたな！はよこっちゃおいで！」ゆうて仕事をさせるんです。見たら簡単な仕事なもんだから「すぐにできるわい」と思ってやり出しましたら「どえらい下手やな、お兄ちゃん」って檄を飛ばされました。ゆたかで働く仲間たちの目は輝いていました。

最後の出会いは3年前、この会場で開かれたきょうされん愛知大会シンポジウム。峯さんとの別れ、つくづく残念でなりません。ミネルヴァから出された「ゆたか作業所」、歴史に残る全国津々浦々で読まれた基礎中の基礎の本です。これを見ながら電車に乗って来ました。峯さん、ありがとう！ゆっくり休んでください。

元職員　大浦 光義さん

峯さんはお酒が大好きです。もう一つの峯さんらしい姿を紹介したいと思います。愛知の福祉協会で役員をやっていた頃、会議や研修会が終わると飲み会に行くわけですが、峯さんは少しずつ陽気になって「じゃんじゃん持ってらっしゃい」という言葉が出る。そうすると「もうそろそろ寝るな」と…。帰りはタクシーに乗せ、必ず運転手さんに「知立の弘法さんに行ったら起こして」と伝えるのが私の役割でした。

福祉村に赴任すると、親御さんから「鮎を網で捕る」ことを教えてもらいました。これが結構面白くて、「もう一人好きな人がいるので」と峯さんに電話をして、峯さんはすぐハマりました。鮎捕りは朝早いのですが、その前夜は飲めや歌えのお祭り。翌朝は半分酔っぱらいながら、豊川の中

に身を沈めて鮎捕りをしたという楽しい思い出です。峯さん、長い間ありがとうございました。

保護者　佐藤 朗さん

福祉村の秋祭り、峯保さんご夫婦は、いつも前日から来て茶室を作られました。ゆたか福祉会がピンチの時には「この禿げ頭でよかったら何遍でも頭を下げて謝る」と言われました。

我が子が名古屋の市民会館前から第2ゆたか希望の家に帰る時、パニックを起こし、みんなが出発できなかった時、自家用車で往復4時間の道のりを送ってくださいました。

私も83歳になり、親なき後を思う時「息子が元気に生活できているのは、峯保さんが始めてくれたからこそ」と心より感謝申し上げます。他の大勢のご家族も同じ思いだと思います。ありがとうございました。

元職員　稲垣 孝雄さん

親会社が倒産した朝、峯保さんが初めて「どうしよう」と辛い顔をしたのが一番の思い出です。2月1日が来る度にあの倒産の日のことを思い出し、僕にとって一生、記念の日です。

年齢では峯保さんが2ヶ月くらい先輩で、出会ったのは59年前。夜間大学の思い出は春休みに自転車で紀伊半島一周をしたこと。1日平均100キロぐらい走って、「とても苦しくて3日間位は自殺する夢を見た」って言っとった。今となってはすごい思い出で「あの旅行が自分の宝だな」と思ってます。

峯保さんから学んだこと。Eテレのハートネットという番組で、磯部君のお母さん「ぎんさん」と、本当に自然ないい形で最高の顔を全国に発信した。やっぱり苦難を、何度も何度も何度も乗り越えて生まれた笑顔。峯保さんを友達に持ったことは、本当に誇りです。どうぞゆっくり安らかに…。また会おうね！

父への想い

スピーチに立たれた健士さんは「言葉で表せないほど感動している。私にとって父はヒーロー。長崎から一人で来て、こんなに大勢の人に囲まれておしまれて亡くなっていく。父ちゃんは〝こんな素敵な時間をありがとう〟と言っていると思う」と述べられました。

また陽子さんは「片方の目が見えなくなり、脳梗塞の後遺症と向き合う中で、きょうされん愛知大会の舞台が目標だった」こと。ゆたかの50周年記念行事を待ち望んでいたこと。亡くなる1ヶ月位前、病院の待ち時間に「これから何がしたい？」と尋ねると「人の役に立ちたい」と語ったと紹介されました。そして「父の人生は最後の最期まで『人の役に立ちたい』『人のために何かしたい』という生涯だった」と結ばれました。

偲ぶ会を終えて

当日は、峯保さんと共に時代を生きた皆さんの人生が散りばめられた同窓会のような、大きな家族のような温かさを感じました。

ある若手職員からは「まさしく障害者福祉のパイオニアと言える存在であり、私たちが現在の制度を享受出来ているのは、これまで道を切り開かれてきた皆様のおかげだと思った。『柱一本、石ころひとつ』というフレーズが印象的だが、現在における「柱や石ころ」は何だろう、と思う。課題や目的を持って、何かを創っていく。そんな精神がこれからも求められているように感じた」という感想がありました。

最後に理事長のメッセージを紹介します。

あの人の生きたように～私の決意～

理事長　鈴木 清覺

峯保さんとは長い間、先輩として、友人、同志として、ゆたか福祉会の発展に共に努力してきました。とても残念で寂しい思いに駆られています。共に歩んだ歴史を振り返ると、峯保さんはゆたか福祉会に働く職員のひとつのモデルを示したのではないかと思います。

残された私たちがその遺志を継承し、どんな困難や課題に遭遇しても揺るぐことなく、「あの人の生きたように」ゆたか福祉会の継続と発展に努力すること、関係者みんながその歴史の中で築いてきた目的・理念を一層高く掲げて、取り組みを進めていかねばと決意をしています。

文責　向幸子

わたしとゆたか作業所

峯保さんが書かれた文章は、ゆたか福祉会の広報誌や年報を始めとして、様々なところに登場します。今回「偲ぶ会」のしおりでは2編掲載しました。ひとつはゆたか福祉会15周年記念文集「人とし生きるために」（1984年3月発行）に掲載された「名古屋グッドウィル工場とわたし」です。もうひとつはゆたか作業所が移転増改築・定員増を行う記念誌として、1985年3月に発行した「16年のあゆみ ゆたか作業所で働く仲間たちⅣ～青年期・成人期の発達保障をめざして～」です。今回は、第三章「わたしとゆたか作業所」で書かれた文章を紹介します。

仲間に学ぶ

鈴木峯保

私は十七年前、ゆたか作業所の前身「名古屋グッドウィル工場」を開所した頃は「障害者も同じ人間だ」と頭で思い気負っていたが正直いって、仲間たちがあのむつかしいジャズドラムをつくれるかなと大きな不安をもちました。しかし、一週間、二週間とたってくると、そんな不安はふきとんでしまいました。「仲間たちを信じる」ことを「仲間から学ぶ」ことを体でつかみました。更にこの仲間から学ぶことを一層感じたのが、あの有名な、「けんか屋セツコのヘンシーン」です。これは、平和なゆたかの集団に、ある時から集団生活を味ったことのないセツコさんが入所してきたのです。彼女は、自分以外はみな敵みたいな生活を余儀なくしていたので、すぐ仲間たちや職員ともけんかをし、何度も「ゆたか裁判」にかけられていました。数カ月後には「セツちゃんがいるので作業所にはいかん」といった仲間や、保護者もあらわれ、暴力はエスカレートするし、職員集団としても対応を苦慮していた時でした。そこで、セツコさんを自宅謹慎にし、仲間たち全員でセツコさんをどうするか、やめてもらうのか、一緒にやっていけるのかのはなしあいをしました。

このはなしあいの中で、やめさせたい人も半数近くいたのですが、いつもいじめられているミツちゃんが「私一緒にやっていく、わるいところなおしてもらえばいい」といってくれました。これに対して「わるい所がなおるまで家におった方がいい」とフミエさんがいうと、ハルコさんがすかさず「家におったってなおるわけがない、みんなとけんかしても一緒にやっていた方がいい、そのうちよくなるよ」、フミエさんは強固になおってからくればいいという。ハルコさんは「だってフミエちゃんだって来た時（入所したとき）は、毎日のように泣いていたのに、今は仕事の虫になっている。トコちゃんだって、泣いたり、ねたり、スネたりしていたけど、今は仕事がんばっている。だからセッちゃんだって変っていく……」と発言されました。このはなしあいに、私と、小邑嘉恵子さんと出ていたのですが、私たちは、一言もいえないぐらい、仲間たちがすばらしい結論を出してくれたのです。私たち職員集団が、口では、障害者の

限りない発達をとなえていても、当面のトラブルに目がうばわれてこと「障害を固定化してみない」ことを更に明確に仲間たちにおしえられたはなしあいでした。この内容を職員会議、保護者会でも報告し、「セッちゃんのような人こそゆたかで一緒にやっていかなければね」と合意ができました。

もうひとつは「アキオ君のエアドライバー事件」でした。これは、朝の会にアキオ君がでてこなくなった。みんなが呼びにいったりしてもでてこない、何故かなあとみんなではなしあっていると「アキオ君は、エアドライバーがやりたくて、場所をとられないように、出勤してきたらすぐエアドライバーの前にすわっている」ことがわかりました。当時、エアドライバーは二台しかなく、出来る仲間がフルに動かさないと納品ができません。そこで「ひまな時にアキオ君は練習すればいい」と職員もいっていたのですが、なかなか約束が守れず、再度のはなしあいをもちました。やはり職員は「ひまな時にやらせてあげるから」とくりかえしていう。しかし、ある仲間は「それはおかしい。もう一本エアドライバーがあれば、アキオ君は毎日できるのに」の発言がされた。私たちはハッとしました。仲間は、仲間のことを思い、根本的な問題解決を提起をしてくれていたのです。エアドライバーは一台数万円するものでしたが、仲間の暖い提起ということで、即座に購入し、アキオ君はエアドライバーを常時つかえるようになりました。またこのアキオ君のエアドライバーをつかいたい要求は、案の定、不良品の山をつくりましたが、それにもまけず、数カ月後には、その仕事でアキオ君は大きな信頼を得るように成長したのです。

また、私は、仲間たちの有名な語録を知っています。フミエさんの熱が四十度近くあって、お母さんが休むようにいっても作業所へ出かけてくる。その時の言葉に「わしが休むとゆたかがつぶれる」、ケイコさんは、仲間が給料値上げのはなしあいをしている時に「そんなに給料あげるとゆたかが倒産する、倒産するとこれん、わたしは今のままでよい」、フミエさん、ケイコさんにしても、グッドウイル工場の倒産を経験している。再建運動を知っているところからの「生きた言葉」だと思う。マサヒコ君は一日の作業が終った反省会の席で「今日はたくさん仕事させてもらってありがとう」といってくれた。今まで何十年も在宅だった彼の大きな喜びのことばとして涙を流したことを覚えています。一方、今は亡くなったタカオ君が、トヨコさんの泣いたり、ねたり、ブラブラすることに対して「ゆたかは遊びにくる所ではない、仕事をいっぱいして、たくさん給料もらうところだ」といっていた。このことは、後の、ゆたかの最高の罰、「仕事をさせない」に発展したのです。

まだまだ、たくさんありますが字数の関係で割愛しますが、私をはじめ職員全員、仲間全員、保護者全員が、ゆたか作業所の構成員全員が、仲間から学び、それをまた、みんなのものとしてきた実践が、今日のゆたか作業所、ゆたか福祉会全体の発展につながっていると確信できるところです。

ゆたか作業所の移転を機に、もうひとつの看過できないことは、久野豊久氏を先頭とする地域住民の皆さんの暖いはげましと協力があります。仲間がケガをしても、道にまよってもわがことのようにして下さり、また施設建設に大きな力をよせて頂きました。

中部善意銀行の皆さんの援助も大助りでした。片山企業倒産時から再建の時の現今井理事長をはじめとした中小企業家同友会の働き、多くの労働組合、団体、研究者、学生さんらの援助が、今のゆたか作業所、ゆたか福祉会を創ってくれたのだとあらためて思いおこすのです。

（元ゆたか作業所所長
現ゆたか希望の家所長）

設楽福祉村キラリンとーぷ便り

キラリン

(福) ゆたか福祉会
2023年 1月 1日発行
設楽福祉村
キラリンとーぷ
Vol. 23

今回はキラリンとーぷ便りから抜粋して紹介します。

誰もが気軽にお出かけできる地域をめざして

名倉地区には、医者や日用品のそろう商店がありません。

「車がないと困る」という声が多く、不安を抱えながら運転を続けている方もみえます。町外の子供さんに通院や買物を手伝ってもらう方も少なくありません。

外出を控えがちになり、運転免許を返納された方は「生活が変わった」と言われます。誰もが安心して住みなれた地域で暮らすために、移動手段の確保は重要です。

今年度は、はじめの一歩として、名倉ロコモ健康教室とキラキラサロンで、足がない方の送迎に取り組みました。

キラリンとーぷの車を使い、ボランティアの運転手さんをお願いしました。乗り合わせた方同士おしゃべりがはずみ、「安心だね」とたいへん好評でした。

「足」の確保は、生活を維持するだけでなく、人とのつながりも生み出します。行きたいところへ行き、会いたい人に会うことで、楽しく元気になります。

誰もが気軽にお出かけできる地域を一緒に創っていきましょう！

名倉小学校福祉講演会

11月2日（水）、名倉小学校で福祉講演会を行いました。コロナ禍以前は名倉小学校の児童さんがキラリンとーぷに全学年それぞれ福祉体験に来てくれていましたが、コロナ禍になり福祉体験ができなくなっていました。

そんな中、小学校から講演会の依頼があり、利用者の藤本さんも一緒に講演を行ってきました。講演ではキラリンとーぷの4つの事業所の紹介や入所施設での障害のある方たちの日中活動などの様子を報告しました。

藤本さんからは施設行事や日々の様子を報告してもらい児童の皆さんは興味深く話を聞いてくれていました。障害ある方たちや福祉施設について、より身近に感じてもらう機会をつくっていただきまして、ありがとうございました。

技能実習生（ベトナム）アインさん&イエンさんなぐら奮闘記

名倉に来て半年が経ち、日本の生活にだいぶ慣れてきたようです。

施設では、食事や入浴、排せつなど介助の仕事を覚えながら、日本語や介護技術の試験のための勉強を頑張っています。

また休みの日には地域のお店に買い物に出かけたり、名倉小学校を訪問するなど地元の方との交流も少しずつ増えました。

雪が降らない国から来た二人なので「雪が見たい！」と楽しみにしていますが、設楽の寒さに負けず今後も頑張って欲しいですね。

一般寄附（12月）

順不同 敬称略

岩田 恒子
植村 薫
富田偉津男
宝南学区女性会
大場 陽子
伊藤 澄子

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

（12月7日～12月18日手続き分）
順不同 敬称略

岩田 恒子
加藤 禎男
清水 理師
鷲山 俊明
青木 一博
細川志喜子
檜山 桂子
鈴木 鐵也
神田 清一
大野 俊秀
髙木 真美
宇都宮啓子
松島 時子
金田久美子
田中 正二
植村 薫
稲垣 孝雄
㈱大橋製作所
㈱名南事務所
㈱想設計

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

日誌 12月

1日(木)	消費税更正請求訴訟 第2回口頭弁論
2日(金)	基礎研修
6日(火)	強度行動障害者支援者養成講座(実践)～7日
7日(水)	つゆはし作業所監査
9日(金)	広報・ホームページ編集委員会
11日(日)	2023年度「内定者交流会」
12日(月)	事業運営推進会議／ベトナム介護講習(～16日)
14日(水)	新所長研修
15日(木)	権利擁護・虐待防止会議
17日(土)	評議員会
18日(日)	鈴木峯保さんを偲ぶ会
21日(水)	所長会議
26日(月)	研修部会議

表紙の作者紹介

「理科室のいろいろ」

ゆたか生活支援事業所みどり　森井 照子さん

60歳になった森井さんは絵を描くことがとても好きで、毎日時間を見つけては楽しんでいます。コロナ下で外出の制限が多い中では、絵の様子も自分の気持ちを反映してか、色づかいが暗くなっていましたが、制限が緩和されると森井さんらしい素敵な色遣いに変わってきました。コロナの制限が本人に与えているストレスは大きいものだったと痛感しています。

広報誌に自分の絵が載る事で、より創作の意欲がわいてきて、とても喜んでいます。昨年同様に緑区のアートフェスティバルへの出展も決まっており、今から楽しみにしています。将来の夢として、きょうされんカレンダーに自分の絵が載る事を目標にしています。

広報・481号

2023年2月号(2023年2月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 ／ 社会福祉法人ゆたか福祉会
印　　刷 ／ 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 ＝ 年間1口6,000円、
賛助会員（個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円）

●銀行口座　名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行　柴田支店　普通預金 291-884
- ・中京銀行　鳴海支店　普通預金 150-425

●郵便振替口座　00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

【お詫びと訂正】

この間「新装版」として発刊した「ゆたか物語」のあとがきと、広報誌№479「『ゆたか物語』発刊に寄せて」の文章において、著者である水野様のお名前が間違っている旨、読者の方よりご指摘を頂きました。著者の水野様をはじめ関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げますと共に、訂正させて頂きます。　誤：水野敬子　正：水野敬美

わたしたち成人式を迎えました

ゆたか作業所

石川さんと磯部さんは同じ養護学校の出身です。入所後も「きっちん Yutaka」で食器洗いや片づけなどを担当する洗浄チームのメンバーとして一緒に働いています。

石川 樹さん

人懐っこい性格で誰とでも楽しくお話をされ、作業所での生活を楽しまれている石川さん。「皆と楽しくお仕事がしたい」「「お給料もらえるから頑張る」と話されたり、なかまがお休みのときには「僕が頑張らないと」と、とても頼もしい言葉が聞かれます。また、役員選挙やカレンダー担当にも積極的に挑戦されるなど、どんなことにも意欲的で、これからがとても楽しみです。

作業所の“成人を祝う会”には残念ながら出席することができませんでしたが、後日現場の皆から「おめでとう！」と、花束やプレゼントを渡されとても嬉しそうでした。二十歳の決意では、「洗い場の仕事を頑張ります。お父さん、お母さんいつもありがとう」と、決意と感謝を述べられました。

磯部 真吾さん

入所当初は自分の思いを言葉にすることが苦手で、作業に入れなかったり、不安から早退されることもあった磯部さん。今では言葉で伝えてくださることも少しずつ増え、時には一人コントをされたり、大好きな BTS の曲を思い浮かべながらダンスをされたりと、チームのムードメーカーになっています。

地域の成人式にも双子の妹さんと出席。1 月 28 日に行われた作業所の”成人を祝う会“には、新調されたスーツにネクタイで参加されました。少し緊張された表情でしたが、二十歳の誓いでは、「お父さん、お母さん、いつもありがとう。お仕事頑張ります」と、感謝の気持ちを手紙で伝える事ができました。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、ステキな大人の男性として成長される事を楽しみにしています。

つゆはし作業所

村井 友美さん

つゆはしでは最年少の友美さん。現場のなかまと 4 役さんを中心に、作業所での成人式を迎えました。お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんもお迎えし、これまでを振り返る感動的な式となりました。zoom 参加のなかま達もみんなでお祝いをしました。

式が終わり職員から「家族のみなさんに伝えたいことはありますか？」と尋ねると、ご家族に向かい「今日は来てくれてありがとう。いつもありがとう」と照れた様子で話されました。みんなに祝われるだけでなく、これまで育ててきてくれた家族への感謝を伝える場にもすることができました。

なるみ作業所

山本 純也さん

２年遅れの成人式となってしまいましたが、今年成人を迎えた仲間と一緒にお祝いをしました。袴もスーツも着て、カッコイイ姿をご家族や仲間に披露出来て良かったです。

坂 さくらさん

愛嬌があって人懐っこく、色々な形で笑いも提供してくれるさくらさん。なるみ作業所との出会いは３年生の９月頃の実習依頼でした。実習当時も含め、入所した頃も生活が大きく変わったこともあってか落ち着かず、集団で過ごすことが難しい姿もありました。

今では行事に参加したり、仲間の休みを心配したり、作業では持ち前の器用さを発揮し、現場での頼れる存在の一人となっています。２年近く一緒にいますが、「さくらさんにはこんな力があったんだ！」と発見、感心することが今でも多くあります。

私たちはその可能性を伸ばしていけるような支援を、日々意識しながら取り組まなくてはと感じています。さくらさん成人おめでとう！カッコイイ大人になってね！

稲垣 はづきさん

はづきさんは養護学校時代になるみ作業所での実習を重ね、利用を開始しました。一時期は作業所に通うことが難しくなるなどの姿がありました。それでも作業所に来たときは自分からコミュニケーションを取りにいき、仲間とフレンドリーな関係を築いたり、やったことのない作業にも自分から挑戦し、できるようになるまで頑張っていました。

“人前に出るのが苦手”だと思っていたはづきさんですが、朝の会の司会もしたりと、振り返れば本当に一生懸命駆け抜けた２年間だったと思います。弱い所を見せてくれないぶん職員としては少し心配でもありますが、自分なりに乗り越え笑っているのがはづきさん。

これからもなるみ作業所で、元気いっぱい楽しんでほしいです！

あかつき共同作業所

秋田 理華さん

2021 年１月に予定していた理華さんの成人式ですが、延期の延期で満を持して 2022 年 12 月２日、名古屋芸術大学アートスクエアの小ホールを借りて行いました。当日はクイズ大会や生い立ち＆事前に作ったお祝い動画等を企画。秋田さんの晴れ着姿に、みんなもたくさんの笑顔でお祝いしました。

ゆたか通勤寮

今年度は４名の新成人がいらっしゃいました。１月８日の仲間の会の全体会にて、お祝いの花束を贈呈しました。新成人の仲間からは「実感がわかない」「責任はつくんだろうな」「大人を満喫します」といったコメントをいただきました。

ある方は、１年ほど前から前撮りなどの準備をし、成人の日を楽しみにされていました。前日は両親へ挨拶に行き、成人式後には「昔の先生に会えて楽しかった。大人になった実感はしない。心と体を大事にして仕事をがんばります」と抱負を語ってくれました。

ふれあい共同作業所

多気 和哉さん

「のんびり班」で２年が経った多気さん。なかまの方と協力して作業に取り組んだり、散歩や感覚活動では素敵な笑顔で、現場をいつも明るく朗らかにされる姿が見られています。

１月７日に作業所で行ったお祝い会では、多気さんのこれまでの歩みの紹介や、各現場からのお祝いメッセージや色紙のお渡し、なかまの会からの記念品と所長からはお祝いの言葉がありました。緊張した表情をされつつ、皆さんからのお祝いに「フフフッ」と笑みもこぼれていました。これからも一緒に楽しくがんばっていきましょう！

〈 ご家族からのメッセージ 〉

小さい頃は病気がちでしたが、元気に大きく育ってくれました。これからも笑顔を絶やさずに作業所に通ってほしいと思います。

みらいろ

岸上 陽樹さん

通信機器解体作業に興味を持ち、作業が始まるとすぐにドライバーを手にします。ビジネスフォンの解体は慣れっこで、得意げな表情で取り組まれます。
見た事の無い大きな通信機器を見つけると表情が一層引き締まり、まるで職人のようです。見えにくい直径 3mm のネジも見つけ、何とか解体しようと必死です。これからも新しい作業にチャレンジしていきましょうね！

〈 ご家族からのメッセージ 〉

成人おめでとう。嬉しい事も辛い事もいっぱいあったね。節目の時だけど何も変わりなく、家族力を合わせて過ごしていこうよ。楽しく元気に過ごせる様に、ずっと応援しています。

釜﨑 凌さん

養護学校卒業後、じょぶ班（じょぶ＝ JOB）でお仕事を頑張っています。作業の準備片付けが得意で、打ち合わせが終わると一目散に必要な物を棚まで取りに行く事が出来ます。片付けで資材の置き場がわからない時は、職員を呼んで一緒に片付けています。

作業の流れを覚えることも得意で、色々な作業を練習して少しずつ出来るようになっています。これからもみんなとお仕事を頑張って“片付けマスター”を目指しましょう。色々な行事も目一杯楽しみましょうね。

〈 お母さまからのメッセージ 〉

成人おめでとう。いつもお手伝いありがとうね。いつか自分のことは全部自分でできるようになろうね！健康第一でこれからも頑張ろう～！

ワークセンターフレンズ星崎

お二人ともフレンズに入られてまもなく２年。共にメール作業に取り組まれています。
お母さまからのメッセージもいただきました。

加藤 優さん

毎日、メール作業に真剣に取り組んできた加藤さん。自分の作業の出来具合をいつも気にかけ、より良く作業するための工夫を自ら重ねてこられました。絵がとても上手で、休み時間には歌舞伎の「見え」を真似して、みんなを和ませてくださいます。

〈 お母さまよりメッセージ 〉

優君、成人おめでとう。趣味に仕事に楽しんで下さい。これからも仲良くしてね。生まれてきてくれてありがとう。

鈴木 将太さん

メール作業の手さばきはすぐに速くなり、毎日たくさんの作業をがんばっています。いつも柔らかく丁寧な話し方で、みんなを癒してくださいます。「次はこの工程がしたい！」「この人と作業したい！」と意欲もあり、今後の活躍が楽しみです。

〈 お母さまよりメッセージ 〉

成人おめでとう㊗早いもので大人の仲間入りですね！振り返れば今日まで山あり谷ありで色々な事がありましたね。これからも色々な事があると思うけど前進して行こうね。